

名作ミュージカル (グリム童話より)

白雪姫

かいせつ

演出/源 紀 脚本/北 麦生

白雪姫の登場人物のお妃様は自分の美しさや、地位、欲のために戦争をおこし、白雪姫を殺そうとします。お妃から逃げた白雪姫は、森にある幸せの小人の国で7人の小人と出会いました。外の世界を知らない白雪姫は、小人達に働くことや自然の素晴らしさ、人々が助け合って生きて行く事の素晴らしさを学び、成長していく過程を描いています。

この作品を通して、現代社会で欠落している「愛と思いやり」の大切さをもう一度確認していただけたらと願っております。

ミュージカル「白雪姫」が、子どもから大人までたくさんの人の感動を誘い、平和な世の中になることを願い、新しい時代への懸け橋になればと思っています。ぜひ、劇団東少が贈る本格的創作ファミリーミュージカル「白雪姫」をご観劇していただきたいと思います。

あらすじ

この作品「白雪姫」の魅力は、白雪姫のやさしさや美しい心です。

妃は、世界で一番美しい者は自分だけだと信じ、「白雪姫」の継母でありながら、娘である白雪姫の美しさに嫉妬し、狩人に命じ白雪姫を殺そうとします。王様も亡き者にして、この国を支配しようとする魔女のようなお妃。でも狩人は、白雪姫を殺すことができず、白雪姫を逃します。「七つの山を越えて真っ直ぐに」と狩人に言われ、白雪姫は言われた通り真っ直ぐに行き、やっこの思いでたどり着いた所は森のなかにある働き者の小人の国でした。そして白雪姫と小人達の生活が始まります。そこで妃は、働くことの喜びや、自然の美しさを知り、小人達にいろいろなことを教えてもらい、楽しい日々を過ごしました。その頃、お妃は、不思議な鏡の前で世界で一番美しいのは誰かと問いかけると、鏡は「白雪姫が生きている」と答えます。そこでお妃は毒リンゴを使って自分の手で白雪姫を殺してしまいます。小人達が悲しんでいるところへ、オリーブの国の王子が一足遅く助けに現れます。そこにお妃が現れ壮絶な戦いをくりひろげます。王子様はお妃を倒し、不思議な鏡も割れ、森に平和が訪れます。王子様は白雪姫にお別れのキスをすると奇跡がおこり、白雪姫は目を覚まします。王子様は、白雪姫に「城へ帰りましょう」といいますが、小人達の居てほしいという心を感じ取り、成長した白雪姫は王子様に「私は小人さん達から働くことの喜びや、自然の美しさを知り、小人さん達に色々なことを教えてもらいました。そして人を思いやることも知りました。もう少しの間勉強して王子様の所へ帰ります」と話しました。その言葉に王子は感動し「わかりました、その時には平和な国を一緒につくりましょう」と語り、感動的な幕となります。

劇団東少紹介

劇団東少は、1949年創立以来公演活動を続けて半世紀を超えた歴史ある児童演劇の専門劇団です。公演地は全国的であり、北は北海道から南は九州沖縄までと幅広く、公演回数も年間100日を超え20万人以上の動員をしています。特に東京公演では、'80年からスタートした東京日本橋の三越劇場での夏・冬のファミリー劇場は、定期公演になり、一般公演の少ない児童演劇界でユニークな存在として現在もその成果を実らせています。又、出演者は数百名のオーディションの中から選ばれた、演技・ダンス・歌に実力のある俳優とベテラン俳優が参加し、大人も子どもも感動できる作品を公演しています。

劇団東少のレパートリーは、心の優しさをメルヘンタッチに描き、現代に通じる愛を芝居・歌・踊りで構成し、涙と笑いと感動を与えられる本格的な創作ファミリーミュージカルとして好評を博しております。

《受賞のかずかず…》

- ◆厚生省児童福祉文化賞
- ◆東京都児童劇団優秀賞
- ◆読売児童演劇賞
- ◆日本児童演劇脚本賞